

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔菓子〕 （企画担当）	・消費者が景気の回復傾向にあることを感じているようであり、また今後、菓子業界、観光業界は繁忙期に入る。
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・年末に向けて観光客が増加し、売上は増加する。 ・季節商品のおでんの売上が、前年同月比より20%上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	・酒類販売免許規制が緩和され、年内にも県内のほとんどのスーパー、コンビニ、商店で酒類の販売が可能となるため、酒類の購入機会の増加に伴い、酒類とその関連商品の売上増が見込まれる。
		家電量販店（副店長）	・現状は最悪だが、2、3か月後は歳末商戦も控えており、来客数は増加し、景気も多少ながら上向く。
		その他専門店〔楽器〕 （経営者）	・観光客数が順調に増加しているようであり、観光関連産業が順調であることから全体的に余裕が感じられる。
		高級レストラン（副支配人）	・個人客、団体客ともに動きが活発化しており、先月、今月同様、イベント等に参加される団体からの予約が入っていることから、これらが好材料となる。
		その他飲食〔居酒屋〕 （経営者）	・10月の売上が前年比118%で好調に推移しており、例年より早く客が市場に出てきている。
		観光型ホテル（商品企画担当）	・2、3か月前と比較すると、オフシーズンに入るので数字的には落ち込むが、例年に比べれば今後3か月の予約状況はすべてプラスで推移しており、11月に関しては企業が主催する報償旅行などの団体の予約が入っている。
		旅行代理店（経営者）	・沖縄に入ってくる団体客は非常に好調で、この状況は春から続いているが、今後も続く。 ・沖縄からの旅行者数は徐々に増加し、良くなっているが、海外旅行も徐々に回復しつつあることから、今後も期待できる。
		ゴルフ場（経営者）	・旅行客の需要が拡大し、現状よりも好転が期待され、単価、売上ともに上昇する。
変わらない	百貨店（担当者）	・モノレール効果や競合店の影響、気温の変化等が消費に影響を与えており、今後も景気全般に注意が必要である。	
	スーパー（経営者）	・客単価は依然厳しい状況にあることから、今後は変わらないが、もしくはやや悪くなる。	
	コンビニ（エリア担当）	・環境の変化、観光客数の減少、異常気象さえなければ、現状同様、好調さは維持する。	
	観光名所（職員）	・来客数の前年同月比の上昇率がかなり大きいことから、これ以上の増加は困難と予想される。	
	住宅販売会社（従業員）	・住宅融資申込期間中にもかかわらず、展示場などへの来客数は前月同様、減少している。ただし、その中で来年、再来年に住宅建築を検討しているとする客層が目立っており、若干ではあるが先々においては明るい傾向もみられる。	
やや悪くなる	スーパー（企画担当）	・客の動きは良くなっているが、商品単価が依然として低く、先行き良くなるような気配もない。さらに11月には競合店のオープン予定があり、客数の伸び悩みも予想されることから、やや悪くなる。	
	コンビニ（経営者）	・社会保険料等の上昇により、庶民の財布のひもが堅くなるのが危惧される。	
	その他専門店〔書籍〕 （店長）	・現在、ビジネス書コーナーで比較的売れているのは、自己破産せずに借金を返す等、自己破産や借金に関するものであることから、依然として自己破産や倒産等の当事者は多いと予想される。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・例年ならば忘年会の予約受注がある時期なのだが、今年は例年よりかなり少なく、このままでは前年度を下回る可能性がある。宿泊客数も伸び悩んでおり、全体的に売上が落ちている。	
悪くなる	商店街（代表者）	・観光客の来客はあるが、外周部への大型店舗の集積がまだまだ出来つつあり、地元の客が外周部へ流れることが懸念される。	
企業 動向 関連	良くなる	輸送業（総務担当）	・年末が近づき、物量が増加する時期だが、前年よりも、物量が増加する。
	やや良くなる		
	変わらない		
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・新規の問い合わせ件数及び当社のモデルハウスへの来客数が減少傾向にある。

		輸送業（営業担当）	・ギフト関係の物量及びその他の荷についてもあまり期待ができない。
		不動産業（支店長）	・景気が回復する好材料が、なかなか見当たらない。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・観光客がますます増えている状況で、観光の現場は非常に活発のようで、観光の現場に対しての派遣スタッフ依頼や観光関連業の派遣依頼が続いており、2、3か月先も同じ状況が続く。
		人材派遣会社（営業担当）	・単発的なものから長期的なものまで、企業からの求人依頼件数に増加傾向がみられる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・年末に向け求人の動きが活発化している。 ・採用動機も退職者による欠員補充ではなく、事業拡大や将来を見据えての増員を目的とする企業が増加している。
		学校〔大学〕（就職担当）	・観光関連企業が年末にますます好転すると思われ、周辺企業も相乗効果が出て、年度末には良くなる。
変わらない	求人情報誌製作会社（営業担当）	・努力して求人を行っている企業も多数ありながら、8月の県統計課発表によると完全失業者数が約5万3千人おり、なかなか求職者と求職者がマッチングできていない状態にある。苦勞して採用しても、すぐに辞められたりなどの状態がしばらく続くと予想されることから、今後も変わらない。	
	職業安定所（職員）	・新規常用求職者の離職理由別前年同月比は事業主都合離職者19.1%増、自己都合離職者13%増、在職者11.9%、無業者12.8%増となっている。 ・新規常用求職者のうち30歳以下の若年者が40.9%を占めるなど依然として若年者の高い失業率が目立っている。 ・求職者の滞留率が高くなり、長期化していることから、今後も厳しい状況が続く。	
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-